

海外向けECシステム「リスト」を開発 イーレディー 中古ブランド品の販売支援 物流のOTSと取り組み開始

ITベンチャー企業のイーレディー（東京、ニール・プラテック社長）は海外向けECシステム「リスト」（LISTUTO）を開発し、ファッション関連分野で物流企業のオーティー

エス（OTS、東京、田中優一郎社長）との取り組みを開始した。OTSはリストを利用する

ファッション関連商品の物流業務を担当する。イーレディーは11年に設立された中古ブランドの海外向けECビジネスの大手で、出荷件数の約90%が海外向けとなっている。



プラテック社長（左）と
田中社長

イーレディーは11年に設立された中古ブランドの海外向けECビジネスの大手で、出荷件数の約90%が海外向けとなっている。同社はブランド品鑑定のノウハウを持つことから、中古品の国内外販売を開始。海外の大手ECモールからオファーを受けて、海外向けECビジネスにも進出し、今では海外の方が国内ビジネスよりも伸びている。消費

者が売りたい中古品の商品データを日本語で登録すれば、英語・中国語など複数言語で同時に商品データが生成されるシステムを開発し、特許も取得。開発したリストを、今年3月から提供している。

リストは商品データを複数言語で同時に生成し、カタログ化が可能。「ユーザーは出品が楽になる」（プラテック社長）という。イーレディーの研究拠点であるイスラエル現地法人、イーレディー・イスラエルが開発に関わった。

消費者は中古品をECモールに素早く出品でき、スマートフォンからでも出品できる。一度商品登録すれば、国内・海外のECモールで販売できる。現在、世界90モールで販売が可能。完全成功報酬制で、売買取引が成立すれば出品者は一定の料金をイーレディーに支払う。OTSは昨年の創立30周年を契機に新サービス「カイトン倉庫」の事業を開始した。カイトン倉庫は「日本の在庫を海外に販売」するビジネスをサポートする。すでにOTS臨海センターで既存取引先の在庫品を売買する「ストックハウス」や倉庫内での「クローズセル」のほか、リストを使った在庫品の海外販売もスタートしている。